校長室だより

☆教育目標☆
自ら考え判断し、進んで行動できる富中生
＜生活心得＞　時を守り　場を清め　礼を正す
令和元年12月6日発行　№16
富岡市立富岡中学校 校長　中村　喜雄

☆☆まちがいを生かす☆☆

教室はまちがってもいいところだ

みんなどしどし手をあげて
まちがった意見だって言おうじゃないか

まちがったことを恐れちゃいけない
まちがえたことを笑っちゃいけない

まちがった答えやまちがった意見を
ああじゃない　こうじゃないと
みななで出し合う中で
本物を見付けていくのだ

そうして　みんなで伸びていくのだ
・・・・・

これは、ある音楽家の「待っている」という歌の詩の一部です。

数年前、この詩に初めて出合った私は、「そうなんだ、これなんだ」と心の中に熱いものを感じ、妙に納得したことが思い出されます。そして、その時、今までの自分には、この「待つ」とい姿勢が、どれだけあっただろうかと自問せざるを得ませんでした。待つとは、相手の人生を思い、相手を信じていなければできないことです。教師としての自分、親としての自分の在り方を改めてふり返させられました。

“待つ”とは、何もしないことではなく、この詩のように、君の歩き方、君のやり方でやってごらんという姿勢、相手の自発的な成長を援助するようにかかわることだと捉えます。だとしたら、この“待つ”ということを親として教師としてやるべきこと、してやれることのひとつに加えることはもちろん、待つことは最も基礎的な教育的なかかわり方と捉えても良いのではないでしょうか。

今の子どもたちは、言われることはできるが、自分で考えてやることが苦手と指摘されています。視点を変えて言えば、私たち大人が、自分で考えながら自分で解決していけるように援助すること、また、そういう時間と場所を保障してやることが十分ではなかったということでもあります。人の育ちの証である自発性は、大脳生理学的にも、外からの指示命令で育つものでないことが明らかになっています。

子どもたちは、信じて待ってくれる人がいる時、安心して自分で考え、判断し、責任もって行動できるようになるのではないでしょうか・・・。